

## 授業の玉手箱

聞く力

夫 明美

ニュースによると、阿川佐和子さん著作の「聞く力」が100万部を超えるベストセラーになっているそうです。阿川さんは週刊誌で著名人のインタビュー記事を長年担当されており、最近では、テレビのインタビュー番組でもホステスをつとめておられます。そんな彼女のキャリアから学ぼうという方々が多いことを発行部数が物語っているように思われますが、本稿では、教室内外での教師と生徒との関わりという視点から「聞く力」を考えようと思います。

まず、授業運営者である教師側の視点に立つと、「教師の話をよく聞く学生」の振る舞いといえば、視線を合わせたり、うなずいたり、ノートをよくとる等の非言語的な側面が頭に浮かびます。また、教師側の話を最後まで聞いたうえで、質問や確認を行うという言語的な要素も含まれるのではないかと思います。対して、教師側が学生の話聞く場合はどうでしょうか？

私自身の短い経験を批判的に振り返ると、学生が言いたいことを言い終わらないうちに「分かったつもり」になってこちらが口を開いたり、学生が自分の言いたいことを自力でまとめようとしている途中で、こちら側が（勝手に）「あなたの言いたいのは、これこれということね。それについては、これこれという方法があるよ・・・」と、まとめたりする場面が少なからずあったように思います。教師が知識・知恵を伝達する側という役割に立つと的外れではないかもしれませんが、はたして学生側に「受け入れられた」、「自分の言いたいことに耳を傾けてくれた」という気持ちが生まれたかどうかについては、大きな疑問が残ります。沈黙をもって相手を待つ、というのも「聞く」姿勢の一つであるという意識が希薄であったためかと思えます。

このベストセラーのニュースから、会話というのは一方が口を開くまでに既に始まっている要素が多く、そこには上記したようなアイコンタクト、表情、姿勢、相手との距離といった非言語的な要素が多く含まれること、また沈黙も会話の大きな構成要素であることを再認識できました。

### 書籍紹介

#### 『開国と英和辞書 一評伝・堀達之助』

堀孝彦 (2011)、巷の人、6,300円 412ページ

30数年前、修学旅行付添いで数度長崎を訪ね、本木庄左衛門が1814年に編纂した日本初の英和辞典『語厄利亜語林大成』を目の当たりにして、英学事始に惹かれた。1808年、鎖国体制下の長崎に英国軍艦フェートン号の侵入を受けて、幕府が早急に作らせたものである。それから40年、1853年、黒船来航時に「I can speak Dutch.」と第一声を発し黒船に向かっていった長崎和蘭通詞がいた。名を堀達之助という。この日本人に押さえ切れない感動を覚えた。達之助は英語通訳（翻訳）家として活躍し、日本初（1862年）の本格的な英和辞書『英和对訳袖珍辞書』（刊行部数200）を誕生させた。2年前発行の『ファミリアル・メソッド』と併せて、堀達之助が序文を書いている。幕末に書かれた両序文が現在の日本にも通じる。『ファミリアル・メソッド』（原文どおり）



開国と英和辞書  
一評伝 堀達之助

The English language is so generally extensive, that almost all Nations speak it, and have books for learning it. Such a thing has given us an idea, to publish this small work for every body, beginning to learn the English. (後略)

HORI TATSUNOSKAY. YEDO, September 27th 1860. 『英和对訳袖珍辞書』（原文どおり）

As the study of the English language is now rapidly becoming general in our country we have had for sometime the desire to publish a "Pocket Dictionary of the English and Japanese languages" as an assistance to our scholars.

In the meantime we received an order to prepare such a Dictionary as soon as possible having in view how indispensable is the knowledge

so universally spoken to become rightly and fully acquainted with the manners, customs and relations of different parts of the world, and its daily important occurrences and changes. (後略)

HORI TATSUNOSKAY. YEDO, November 1862.

幕末に国家の最前線で異文化接触した驚愕の開国経験と苦難の生涯を丁寧に辿りながら、壮大なスケールで日本の近代の意味をも問いかける、堀達之助(1823～94)の傑作評伝である。(中井 弘一)

## 大阪女学院大学「教員免許状更新講習3」 平成24年度講習

平成25年3月9日(土) 9:10～16:40

<http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc/certificate>

「思考力・判断力・表現力」の育成をめざす指導 一

・国際社会を読み解く英語力

—異文化理解の視点から時事素材を教材として—

東條 加寿子 大阪女学院大学 教授

・思考力を高める英語授業

—様々な thinking skills, project-based learning などを取り入れて—

中井 弘一 大阪女学院大学 教授

### 講座のねらい

新しい知識・情報・技術が政治・経済・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す知識基盤社会においては、異なる文化との共存や国際協力の必要性という理想の追究もさることながら、アイディアなどの知識そのものや人材をめぐる国際競争の加速化が一層激しいものになっている。その対策としての規制緩和や制度改革が進む競争社会において、自己の能力を発揮し社会に貢献するためには、基礎的・基本的な知識・技能の習得やそれらを活用して課題を見だし、解決するための思考力・判断力・表現力等が必要であると文部科学省は我が国の教育の方向を打ち出している。

第一部「国際社会を読み解く英語力」では、グローバル化の進む国際社会で通用する「思考力・判断力」を養うためには、自文化の価値判断や思考回路から脱却した異文化理解の視点が必要であることを、時事英語素材を使って演習する。

第二部においては、英語の授業で「思考力・判断力・表現力」を育成する指導の構成要素は何か、その key competencies とは何かを探りながら、critical thinkingをはじめ様々な thinking skills や PBL などを用いた実際の教材展開例を考える。

### 定員・対象

中学校英語科教員・高等学校英語科教員 計30名

(定員を超える場合は申し込み先着順にて締め切り)

### 受講方法

○受講申し込み受付

平成25年1月15日(火)より2月22日(金)までに大阪女学院大学 教員養成センター「教員免許状更新講習」担当(ttc@wilmina.ac.jp)へお申し込みください。

○受講料 3,000円(所定の口座へ振り込み)



### 編集後記

「教師とは子どもの成長を幸せに感じ、そのことで自らも成長できる専門家のことである」秋田喜代美氏の言葉は明日への授業の支え。

大阪女学院大学・大阪女学院短期大学  
教員養成センター Teacher-Development Support Center

540-0004 大阪市中央区玉造2丁目26番54号

Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373

Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>

e-mail: [ttc@wilmina.ac.jp](mailto:ttc@wilmina.ac.jp)